

令和 5 年度事業報告書

公の施設名称	おかざき自然体験の森
施設の設置目的、役割	良好な自然環境を保全しつつ、自然を活用した各種の体験を通じて環境教育の推進を図る（岡崎市自然体験の森条例 第 1 条より）
施設の所在地	岡崎市八ツ木町池ノ上 10 番地
施設規模	敷地面積：41ha 建物面積：383.91 m ²
指定管理者	名 称：コニックス株式会社 所在地：名古屋市中村区太閤四丁目 6 番 22 号 代表者：代表取締役 吉田 治伸
指定期間	令和 4 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

指定イベントについては岡崎市直営時よりアレンジを加え、すべての事業を実施した。

小中学校の環境学習授業は 3 校（愛宕小 3 年生 24 名、竜南中総合学習 6 名、新香山中 1 年生 150 名）、指定管理者独自のカリキュラムを作成し実施した。

市民活動団体とは昨年同様コミュニケーションを密にとり今まで同様のイベントはもちろん、告知も岡崎市ホームページに記載してもらうことができるようになった。

提案事業については春の風まつり、夏の水まつり、秋の里山感謝祭、冬の空まつり等四季折々のイベントを開催した。（冬の空まつりのみ雨天中止）

森の教室、四季のまつり、森の歴史、昔ながらの農業体験、（稲作、さつま芋づくり、お茶づくり等）市民活動団体イベント、ボランティア活動等積極的に実施できた。

通年参加型の自然環境学習プログラムとして「おかもりファミリークラブ」を立ち上げ 10 家族、子ども 12 名、保護者 11 名「自然の中で自ら考え行動できる」を目標に 4 回のプログラムを実施した。なお、各回の講師には市民活動団体や専門家をお願いし楽しくもためになる内容になった。

本年は 3 年に一度の「森づくり方針改定」の年だったため、今まで岡崎市が実施していた生息調査はもちろん、市民参加型のモニタリングも開催した。

「森づくり方針策定」に向け、調査機関と指定管理者だけでなく、岡崎市環境政策課の担当者、日頃おかざき自然体験の森で活動している市民活動団体の皆様、八ツ木町内会長、森林組合及びビオトープ・ネットワーク中部をメンバーとする「森づくり協議会」を発足させ、名古屋大学大学院高野教授をファシリテータとしてお迎えし各市民活動団

体のヒヤリングから合計 4 回にわたり協議を行い具体的な活動エリアマップ、活動計画を立案、また新活動エリア（里山ミニモデルづくり）をまずはボランティア活動として発足し令和 6 年度より活動を開始する。

さらに、せっかく発足した「森づくり協議会」を 1 年で終わらず、今後も相互の情報共有の場として「森づくり連絡会」として活動していくこととなった。

近隣の企業ボランティア参加も積極的に呼びかけを行い、昨年の三菱自動車、ジェイテクトの他にジェイテクト花園の親子ボランティア活動も企画したがあいにく雨天中止となってしまった（申込：28 名）。

昨年度より「西三河生態系ネットワーク」に加入、その後「愛知県生物多様性サポーターズ」にも加盟し、他団体の活動内容を参考にしたり新たなネットワークが構築でき、「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金」及び「あいち森と緑づくり生態系ネットワーク形成事業交付金」の活動補助金申請も行い指定管理料以外での自然共生活動を実施することができた。

また、本施設が愛知県水循環勉強会の会場となり、弊社の岡田康が講師を務めた。

この二年間で指定管理業務の仕様書に記載された資格はすべて取得できた。

必須：自然観察指導員、プロジェクトワイルド・ウェット指導者、ネイチャーゲームリーダー

推奨：生物分類技能検定（3 級・4 級）、ビオトープ管理士

（２）事業実施に対する自己評価

今年度も各種事業や環境学習授業に関しては体験の森指定管理者独自の工夫を加え職員自らの企画で推進できた。

- ① 昔ながらの農業体験：計 16 回（稲作、さつま芋、お茶）
- ② 森の教室：計 8 回（ハイケボタル観察、ヤゴ、夏・秋の虫、標本づくり、池・川の生きもの、ナイトトラップ）
- ③ 春の風まつり（竹とんぼ）、夏の水まつり（竹水鉄砲・流しそうめん）、秋の里山感謝祭（モルック）、冬の空まつり（凧揚げ）と四季のいろいろな自然のあそびにふれあう機会とするべく企画内容を昨年よりさらにブラッシュアップし来場者の大幅なアップにつなげることができた。秋の里山感謝祭では今年度より設置された「ピザ窯」のお披露目を兼ねて「窯焼きピザ」を無料でふるまった。

今後も常に来場者増に貢献できるように工夫して行きたい。

春まつりと秋の里山感謝祭は市民活動団体の出展もあり協働事業となった。

今年度は数年前まで岡崎市でも開催していた「森の十三夜のおんがく会&お月見」を有料にて開催した。日本古来の十三夜のお月見の風習の中、雅楽と創作舞踊、天体観測会も行い昼間の体験の森とは全く違う雰囲気イベントが開催できた。

- ④ 森の歴史：1 回（信玄道）

岡崎市と岩津松平 600 年の会で整備していただいた信玄道を郷土史家の解説で散策した。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

令和5年度の来場者は19,470名と前年実績の104.1%と微増ながら上回ることができた。昨年度の増加傾向から令和5年度はもっと来場者が増加すると思われたが、5月よりコロナウイルス感染症が第5類に移行となり今までの近場で安全な屋外の行楽である「ミニマリスト」から徐々に遠くの人気の高い（人が多い）行楽地に戻る傾向となってきた。

おかざき自然体験の森で実施する各種イベントの参加者は増えているが一般の来場者がやや減少傾向となっている。

※トヨタの森等近隣の他の自然環境施設も同様の傾向との情報がある。

有料占有利用団体の利用に関しては昨年度以上に各種団体にご利用されるようになり有料利用収入は昨年度の25,920円を大きく上回り147,300円と(568.3%)なった。

利用団体としては昨年度からの「森のクラフト」「ヨガと雅楽」「切り紙のワークショップ」の継続、新たに福祉系の団体である「イエナ式探求塾」「NPO しんあい」「NPO 母りん子」をはじめ「ピオトープ・ネットワーク中部」「ボーイスカウト」「もっかそん：企業内グループ」遠方から大阪の「帝塚山学院美術コース」の屋外授業での来場があった。

さらに大阪のツアー会社「そらまめキッズツアー」による営利目的での利用が2回あった。（令和6年度の夏にも利用予定）

管理棟での来場者受付ではスタッフが必ず対応し来場時間、人数、お住まい、施設の認知方法等をお伺いするようにし、現在の見どころや今度のイベント予定等の案内を積極的に告知している。

4月に子育てママのインスタグラマーが炭焼広場の鯉のぼりを紹介してくれたことにより子育て世代の来場者が急激に増加した。

9月より管理棟付近に「東海オンエアの虫眼鏡くん」の等身大パネルが設置され撤去までの3か月間は県外からの来場者が約150名となった。

（ただしリピーターにはなかなかかなりえないと思われる。）

(2) 利用状況に対する自己評価

FaceBook や Instagram 等の SNS を立ち上げ、ホームページにもバナーを掲出したことから新たな来場者の創出ができてつつある。

令和4年より来場者やイベント参加者向けにアンケートを実施し、ニーズを把握し今後のイベントやプログラムの開発の参考にした。

指定管理業務の提案書にも記載した「おかもりファミリークラブ」を立ち上げることができ参加者の満足度アップや来場者の増加にも貢献できた。

また秋の里山感謝祭の後、弊社東海支店に参加者からの接客に対するお褒めの電話を頂き、全スタッフでこのことを共有し、さらにモチベーションのアップとなった。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額（円）
収 入	指定管理料収入	指定管理料－精算還付（修繕、輸送費）	29,127,491
	利用料金収入	施設占有利用料収入	147,300
	事業収入	事業参加費等	247,030
	その他収入	施設の材を使った物販売上	150,772
収入 計			29,672,593
支 出	直接管理運営費	直接人件費、光熱水費、消耗印刷費、修繕費、清掃等委託料、保険料等	24,287,712
	（うち修繕費・輸送費）	※精算項目	837,781
	事業費	事業に係る経費	253,451
	その他	本部経費、租税公課、当期剰余金等	5,131,430
支出 計			29,672,593
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

指定管理者 2 年目となり指定管理料及び利用料収入等の範囲内でスムーズな管理運営が遂行できた。

精算項目である修繕費についてはほぼ予算通りに運用できた。学校関係の環境学習授業で利用する輸送費（環境教室バス経費）は開催回数が昨年同様 2 回だったが配車台数が多かったこともあり昨年度よりも執行額は増加した。（約 10 万円の返還）…学校関係へのアプローチを昨年度より実施したが日程調整がまだまだ不十分だった。

修繕費については年度末の残高を確認し管理棟の多目的室の照明を L E D 照明に更新し今後の電気使用量の削減につなげた。

利用料収入に関しては指定管理者導入に伴い施行された項目だが今年度は予算対比 98.2%）とほぼ予算通りの収入となった。今後はピザ窯や餅つき等の付帯設備をうまく利用につなげていきたい。

4 利用者アンケート結果

(1) 実施概要

実施期間	回答者数	アンケート実施方法
令和5年7月から12月	一般・イベント参加者 60件	一般 管理棟受付での声掛けによる収集、イベント参加者にアンケートのお願い。 ※森の教室は別途次回の参考用

※アンケート回答者には「おかざき自然体験の森」オリジナル缶バッジをプレゼントした。

(2) アンケート結果概要

アンケート内容

- ① プロフィール 性別・年齢・お住まい（市内・県内・県外）
- ② 来場者特性 来場回数・好きな場所・希望イベントプログラム
- ③ 職員・施設 職員の対応・施設に対するご意見
- ④ 当施設のイベント・ボランティア活動に関する質問 興味の有無・開催内容・曜日等
- ⑤ その他ご意見

※結果については別紙。

(3) アンケート結果に対する自己評価

職員に対する評価は「満足」が100%となっている。

もともと自然が好きな方が来場されているのか、施設に関してのご意見や要望はほとんどなかった。

※今後はボランティア活動や里山整備、さらに専門的な自然情報についての情報発信をしていきたい。

※施設の告知方法をもっと効率的に実施できるようにしたい。

豊富な媒体の活用…チラシ、看板、SNS、市の広報、市のPRタイムの活用、メディアへのパブリシティ強化。

5 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

公共施設ならではの公平性の担保と民間企業ならではの接客・接客強化心掛け、安心・安全・快適な施設運営を全スタッフで心掛けて運営できた。

施設内で活動する市民活動団体の皆さんもサービス精神が芽生えてきたと思われる。

来場者をお迎えするという意識で施設の安全・美化に努め、写真募集等の双方向コミュニケーション企画をもっと導入する必要がある。

施設内の自然素材の加工品等さらに増やしお値打ち価格（受益者負担）で来場者に提供できたこともサービス向上につながったと思われる。

昨年同様140,000円以上の売上があった。

※木炭、竹炭、薪、干しシイタケ、寒茶、ハーブ茶、もち米、茶油、スウェーデントー

チ、竹とんぼ、森の味噌等・・・活性炭にもチャレンジしたい。

また、管理棟の照明を LED 照明に交換したため非常に雰囲気の良い古民家になったので、週末やゴールデンウィーク等の期間で古民家カフェの導入を検討したい。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

来場者に積極的にお声がけをすることによりニーズを把握することに努めた。

まだまだ、ここで何ができるか知らない来場者が多いため、管理棟内のレイアウトを変更し自然観察の呼びかけや販売品用の棚をもうけ PR を強化し、自由工作の材料を充実させた。

管理棟に来場した方はもちろん場内で散策している方にも積極的にお声がけするようにした。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

来場者のご意見に対しては真摯にお伺いし、岡崎市の所管課（環境政策課）に報告した。

指定管理者だけで対応できることは即、改善を実施し定例会等で岡崎市に報告した。

また、指定管理者だけでは対応できない事項については早急に岡崎市に報告し指示を仰ぐようにした。

おかげさまで令和5年度も大きなトラブルなく運営できた。今後も市民及び来場者目線での運営を務めていく。